

期 昭和五十九年五月十四日（六月九日）
於 図書館三階閲覧室（本館）

鳥獸戯面（複製）

鳥獸戯面卷は、世に伝鳥羽僧正覚猷筆とされる。京都 高山寺所蔵、現

存四卷の白描鳥獸人物戯面絵卷である。

福井利吉郎氏の論考があり、氏は、この四卷を、

第一卷（甲卷）を上、下に分け「猿僧正」卷

第二卷（乙卷）を「畜生界」卷

第三卷（丙卷）を前半「人間界」卷、後半「統猿僧正」卷

第四卷（丁卷）を「統人間界」卷

の五種全六卷の復原説を打ち出し、作者も、「猿僧正」、「畜生界」、

「人間界」の各卷を長覚房定智、「統猿僧正」、「統人間界」の各卷を

鳥羽僧正覚猷の筆と推定し、この戯面卷を主題を統一したものとしてみ

え、平安末期に広く流布した仏教の六道思想を根幹にすえ、解釈を試み

た。

これに対し、下店静市氏は、これに批判を加え、全体を統一的に見る

考えを否定した。まず第二卷（乙卷）の「畜生界」を内容的に見て、六

道思想からの投影とは認められず、中国絵画からの粉本説を示した。

また、各卷の内容・様式から、製作年代を第一、二卷を平安期、第三、

四卷を鎌倉期と推定し、福井氏の定智・覚猷合作説を否定している。

現在、下店氏の説が有力である。

その他、鳥獸戯面としては、住吉家伝来高山寺戯面模本（梅沢彦太郎

氏蔵）、加藤修氏模写本（京都国立博物館蔵）、長尾氏旧蔵本一卷など

があり、また原本から逸出したと伝えられる断簡（東京国立博物館蔵、

益田家旧蔵、高松家旧蔵、前山観空庵旧蔵各一幅）が現存する。

今回は、高山寺所蔵の二卷（甲・乙卷）を展示する。

○鳥獸戯面卷 複製（別置 七二一・二一一五）

伝鳥羽僧正覚猷筆 高山寺所蔵 国宝

二卷（甲・乙卷） 卷子本 三十纏 箱入

東京講談社 昭和四十四年刊

別冊解説一冊 梅津次郎編